

短めのまえがき

「聖地巡礼」(pilgrimage) と聞いて第一に思い浮かべるイメージは国や地域、人、世代などによって異なります。もちろん、第一義的には宗教にかかわる重要な場所を聖地と呼んで、そこを訪れることを指します。ですが、たとえば、スポーツ選手にとって重要な場所を「聖地」と呼ぶ使い方も、一般的になされています。相撲の両国国技館、野球の甲子園、ボクシングの後楽園ホールは有名ですね。特定の職業や趣味の聖地もあります。近江神宮は「かるた」の聖地です。あるいは、何らかの開運効果があるとされる場所が「パワースポット」と呼ばれ、聖地化することもあります。アイドルの出身地やゆかりの場所、名字が冠されている神社への来訪なども聖地巡礼と呼ばれています。

「聖地巡礼」は、これほど幅の広いイメージを束ねる言葉になっています。本書では、この聖地巡礼のなかの「アニメ聖地巡礼」を扱います。1990年代から目立ち始めたアニメファンの行動で、アニメの背景に描かれた場所を探し出して、実際にそこを訪ねる行為です(図)。この図は、2018年2月2日に力士の天空海^{あくとあ}さんがアニメ映画『君の名は。』(2016年)の聖地巡礼を行い、越錦^{こしにしき}さんと共にシーンを再現して、自身のTwitterアカウントから投稿したツイートです。『君の四股名は。』というコメントが付されたこのツイートはTwitterユーザーの間で人気を博し、2018年7月時点で11万以上の「リツイート」、22万以上の「いいね」を獲得しています。このツイートをきっかけに、そのコメント欄では『君の名は。』の主題歌である『前前前世』(RADWIMPS)の替え歌『前前前頭』が複数のユーザーの書き込みでつくられていきました。本書は、現在このような展開を見せている「アニメ聖地巡礼」について研究を行った成果を記したものです。

このように書くと、よくいただく声があります。それは、「アニメのような軽薄な文化と、歴史的な聖地巡礼を同列に扱うなんて、けしからん」などというものです。高齢の方からいただくことが多いのですが、若い学生から聞こえてくることもあります。何らかの違和感を覚える現象を前にしたときに、かた

図 アニメ映画『君の名は。』の聖地巡礼



天空海 翔馬 あくあしよ...
@aquashoma

フォローする



君の四股名は。



3:32 - 2018年2月2日 場所: 東京 千代田区

110,322件のリツイート 226,013件のいいね

出所：天空海さんの Twitter より (@aquashoma)。本人の許可を得たうえで転載。

くなく否定的な態度を崩さずには、分析がそれ以上進みません。いわゆる「思考停止」というやつです。さらに、対象への攻撃を表明してしまう態度は、もはや、いじめやハラスメントなどに隣接するものでしょう。

古いものだけが重要なのでしょうか。詳しくは、『マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる神社巡礼』（エクスマレッジ）という書籍で書いたのですが、そちらをご覧くださいなのですが、文化は、古い状態のまま固定してしまうことによってのみ、守られるわけではないのです。私は、「古いものは不要で新しいものが大切だ」と言っているわけでは決してありません。そうではなく、新しいものも古いものもどちらも研究して「面白がる」あるいは「面白がり方を学ぶ」ことこそ重要であると考えています。古いものを学んで新しい表現形式を生み出すことも、新しい表現に惹かれて歴史を学ぶ回路も、どちらも必要だと思うのです。違和感は、むしろ研究のチャンスです。

本書では、一見すると「軽い」現代の文化現象を、研究というアプローチで分析しました。私は大学の教員なのですが、学生さんに日々お伝えしているのは、この「研究」の態度です。それは、自分で決めたテーマについて、すでになされている先行研究を調べて整理し、客観的な調査を実施して、そこに自分なりの新たな知見を付け加えていくというものです。

私は「研究テーマに貴賤は無い」と口癖のように言っています。研究という行為の魅力の1つは、研究の作法を守りさえすれば、どんな対象についても扱える自由さだと考えているからです。本書ではアニメ聖地巡礼を扱っていますが、私は以前、研究のアプローチを用いて『ゾンビ学』（人文書院）という本を出版しました。「ゾンビ」なんて、もっと研究にならなさそうでしょう？ でも、これも対象にしてしまえるのが研究の面白いところなのです。

本文では、アニメ聖地巡礼の実態について、さまざまな方法を用いて迫っていきます。先行研究の整理、文献研究、新聞・雑誌記事分析、アニメ作品そのものの分析、アンケート（質問紙）調査、現地に出向いて調査するフィールドワーク、関係者へのインタビュー（聞き取り）調査、SNSを用いた調査や、ウェブサイトやブログのアクセス解析などを組み合わせました。

逆に、アニメ聖地巡礼について詳しい人からすると、これらの手続きは「まどろっこしい」ものかもしれません。ただ、「研究」が大切にするのは、客観的に検証可能な手段で事実を積み重ねて結果を得ることです。当然、研究主体による解釈が入り込みますので、完全に客観的であることは不可能ですし、それはそれで無味乾燥なものになるでしょう。ですが、でき得る限り、他者が読んでわかるように表現し、他者も同じ方法で再度結果を検証できるように方法や手続きを明示する。これを心がけるアプローチなのです。

この本には、研究の成果はもちろんですが、それを導きだすために用いた方法についても詳しく記載しました。付録では、実際に用いたアンケート用紙や、ウェブサイトへのアクセス数なども掲載しています。つまり、皆さんは、得られた結果から、私とは異なる考察を行うことも可能なのです。それは研究の重要な営為の1つである「批判的検討」につながり、そこから皆さん独自の新たな研究上の問いが生みだされます。さて、前置きはこのあたりにして、そろそろ、アニメ聖地巡礼に観光社会学的に迫る「旅」に出かけましょう。